

船井情報科学振興財団

第 5 回報告書

久壽米木啓悟*

Cornell University, Department of Information Science

2025 年 6 月

あっという間に博士課程 2 年目が終わろうとしていて、時間の流れの速さに驚いています。2023 年からコーネル大学で、計算社会科学、特に Science of Science の研究をしている久壽米木（クスメギ）です。

現在の研究活動

AI がもたらす影響について

最近、人間と AI、どちらとのコミュニケーションが多いと感じますか？もしかしたら、AI との会話の方が楽しいと感じている方もいるかもしれませんね。本格的な対話とまではいかななくても、日常的に何かを調べる際に AI による検索を自然と使っている方は多いと思います。特に、私自身の研究においても、AI がもたらす影響や変化を日々実感しています。分析のためのプログラミングコードは AI の方が速く、正確に書いてくれることもありますし、英語が非ネイティブの私のような人間にとっては、普段のメール作成から論文執筆中の手助け、ブレインストーミングまで、日常の様々な場面で AI に助けられているなど感じます。もちろんこの報告書も AI に添削してもらっています。

そんな AI の科学に対するインパクトを調べるため、2024 年 5 月頃からプロジェクトを始め、およそ半年から 9 ヶ月間、かなり集中的に取り組んできました。様々な角度から AI の影響を測ることができますが、今回は「人」（研究者）に焦点を絞り、AI がもたらす影響を定量的に示しています。具体的には、「AI を使う研究者の生産性はどのくらい上がっているのか」、「誰が特に AI の恩恵を受けているのか」、「知識の幅（引用のスタイルなど）はどう変わっているのか」、「論文の質はどう変化しているのか」といった問いに答える研究を進めており、直感的に「なるほど」と頷ける結果から、これからさらに深掘りしたくなるような面白い知見をまとめています。

このトピックはタイムリーということもあって、半年ほど精力的に研究を進め、多くの成果を出すことができました。その中で 11 月から 12 月にかけて論文の構成をまとめ、ちょうど 1 月にジャーナルへ提出したのですが、4 月に revision という形で一旦手

元に戻ってきました。博士課程で初めての論文ということもあり、まずはリジェクトされずに一安心です。この最後のもうひと踏ん張りを乗り越えて、アクセプトまで持っていきたいと思っています。

学際性 (Interdisciplinary) のエキスパートとして

上記のプロジェクトとは別に、博士課程1年目のときに始めた、いわば自分のプロジェクトとして、学際的なキャリアを持つ人たちについて研究しています。実は、もうかなり面白い結果とストーリーができあがってはいるのですが、上記のプロジェクトに全集中していて、なかなか最後の詰めができておらず、宙ぶらりん状態です。（きっと研究者あるあるですよ…）かといってずっと放置していると、誰かに先を越されてしまうかもしれないというのがありますし、今年の夏にしっかり仕上げるのが目標です！（次のレポートでも同じようなことを言っている予感がしますが…）

インターン未遂

今年の夏どうしようかな～、のんびり研究して過ごそうかな～と考えていたところ、指導教員から「ある会社にいる研究者の友人が、私たちと共同研究をしたいと言っている」という話があり、その流れでインターンとして夏を過ごす案が出てきました。研究内容も普段やっている研究と密接に関わっていますし、共同研究者がしかもインダストリーのデータを使って、コネクションまでできるということで、私としては「やりたいです！」とすぐに返信しました。

とりあえずインターンとして応募してくれと言われたので、言われるがままに応募しました。「リファラルだし、すーっと決まるだろう」と思っていたら、準備など何もしていなかったコーディングテストと面接を受けることになりました（何も聞いてなかった！）。なんとか全てのステップを通過することができたのでよかったのですが、それで、「オファーレターが10日くらいで来るから待っててね」とメールが来たので、早く来ないかなと待つこと10日、2週間、3週間…全然来ないんです。

リクルーターと指導教員の友人に連絡を取ると、なんとその友人のチームのマネージャーがちょうどいなくなってしまう、そのマネージャーのマネージャーもいなくなり、結果的にインターンの枠がなくなってしまったとのこと。アメリカのリアルを感じましたね。

最終的には「他のチームとマッチングできたら連絡する」という状況になったのですが、当初計画していたインターンの研究はできそうにないし、結果的にマッチングの連絡も5月の頭と遅かったため、私のすでに決めていた都合と合わず、今年の夏のイン

ターンは流れてしまいました。今回の出来事は自分の手ではどうにもならない範疇だったと思うので、どうしようもないな、という感じですね。

今後の予定

まずは今進めている二つのプロジェクトをきっちり仕上げることでですね。どちらも良いところまで来ているので、今年の夏はこれらのプロジェクトでいくつか学会発表をする予定です。6月にはコペンハーゲン（デンマーク）に行ってきます！北欧は初めてなので、学会以外の時間も楽しみたいです。

あと大きなイベントとしては、コミッティメンバーを形成し、6月に今後の計画について考える機会があります。ちょうど今のプロジェクトも終盤に差し掛かっていて、最近アドバイザーからも「次、何するの？」と聞かれます。正直、「そのまま聞き返したい！」と思ってしまうですね。まあ、博士課程の学生が通る道ですよ（きっと）。

そんな中で、これからの研究や近い将来について考えないといけないのですが、なかなか時間がとれないのが一つ悩みの種ですね。進行中のプロジェクトが忙しいこともあり、目の前のやるべきことをこなすので精一杯になってしまっている自分が、時に嫌になることもあります。数年後にやりたいこと、将来のキャリアのことなども考えないといけないのに、という焦りも感じています。

でも、考え始めるとキリがないのですが、正直、まだ色々決まっていなくてこそ様々な可能性を感じながらワクワクしている自分もいます。PhD生活は大変なことも多いですが、これからどんな経験が待っているのか、なんだかんだ楽しみです。また面白いご報告ができるよう、マイペースにやっていきます！